



第21号 2019年7月23日発行

五ヶ瀬川の豊堤を守る会

今年度は四月が平成三十一年、五月が令和元年となり、西暦で表示するか元号にした方が良いのか迷われた方も多いのではないのでしょうか。

このような節目の年に「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」では「市民まちづくり活動支援事業」の承認を得て「水辺の青空美術館」を実施することと致しました。

皆様ご存じのように、船倉地区五ヶ瀬川右岸、板田橋下流に三軒の防災道路が整備され、安全、安心に誰もが豊堤を見学できるようにしました。その場所には百二十基の

豊堤があります。今回この内の八十基の豊堤を「水辺の青空美術館」として活用しようとする事業です。
内容は、コンパネと雨に流

絵画の
先生(右)と筆者



れない絵の具六色、筆三本、刷毛を当会が無償で提供します。このコンパネに、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学を含む一般より趣旨に賛同していただいた方に「ふるさと延岡」に関する絵画を描いてもらいます。描いてもらった絵画を豊堤に差し込んで十一月一日〜十二月二十日まで約五十日間、市内外

新時代に新しい企画

の多数の人に、きれいな五ヶ瀬川を見ながら青空の下で絵画を鑑賞していただくという

うものです。さらに最優秀賞と優秀賞を六つの部門ごとに決めたいと思っています。

これを通して、昔の人が自分の家の豊を持ち出し豊堤にはめ込んで水害から街を守ったという「自分たちのまちは自分たちで守

る」という教えや「お互いを思いやり助け合う心」が育まれるのではないかと思います。また、故郷のべおかを愛する心や自然環境、災害に対して自らの工夫でまちを守るアイデアを持つ子どもたちが増えてくるのではと考えています。

さらに、この場所は街中ですから、延岡を訪れた観光客

が「水辺の青空美術館って何」と、見学に訪れてくれることでしょう。この事業は、観光資源の一つにもなると考えています。

今年も宮崎県は豪雨にさらされました。先日、防災、減災に関する「知事とのふれあいフォーラム（こんにちは！河野です）」が県庁で開かれ、県内各地からの参加者がそれぞれの地域活動を紹介しました。私も参加して、当会の活動を述べさせていただきました。

延岡市は、水郷延岡と称されるように、市内には五ヶ瀬川、大瀬川、祝子川、北川の四つの大きな川が流れています。五ヶ瀬川の洪水の原因は台風がほとんどですが、一度豪雨が降ると、四つの川の水が一気に河口に流れ込みます。しかし河口が小さいため流水が膨れ上がり、水位上昇により市街地は浸水の危険に幾度となくさらされました。五ヶ瀬川の豊堤は、浸水被害から市街地を守るために大正末期から昭和初期に造られたであろうと言われている国内最古の特殊堤防です。

「豊堤」は住民一人ひとりの「自助・共助」の精神を今に伝える施設です。私たちは、洪水の被害から街を守ろうとした昔の人々の知恵や工夫を見直し地域防災のシンボルとして次世代に伝えていこうとさまざまな活動を展開しています。

皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

会長 木原 万里子

九州各県の 河川関係者に 畳堤をアピール

九水連総会で上田副会長が講演

九州治水期成同盟連合会（大久保勉会長・久留米市長）の令和元年度定期総会が五月二十八日、延岡市紺屋町のエンシティホテル延岡で開催されました。議事に先立って行われた講演会で、当会上田耕市副会長が、開催地延岡市からの依頼で講師を務めました。

同連合会は、九州の国直轄の河川・ダム・砂防・海岸事業の整備促進のため、関係団体が連携して要望活動などを行うことを目的に、五ヶ瀬川水系河川

関係自治体の会場持ち回りで年一回総会が開かれており、沖縄を除く九州全県から各河川事務所長、関係自治体の首長・担当者ら約三百人が一堂に集いました。その前で講演をすることは、五ヶ瀬川の畳堤を広く知っていたたく、またとない好機となりました。

講演のテーマは「未来につながる『畳堤』の教え」。七十五分もの時間をいただいております。まず、二〇一二年に当会が作ったDVDを映写。その後、資料をスクリーンに映しながら上田副会長が話しました。

かつて延岡では、豪雨時、膨れ上がった水を順



畳堤のミニ模型を組み立てる参加者

調に流すため、河口をふさいでいた毛なし浜を切つて水の道を作る作業が行われていたこと、それが命がけの危険な作業であったこと、そして畳堤は、その作業が終わるまでの間、市街地を浸水から守るために造られたと考えられること。

また、五ヶ瀬川の畳堤が、長良川や揖保川のそれとは違って、扇型のしやれたデザインになっていること、当時の一般住宅で使われていた五八間（江戸間）の畳がびったり入る大きさに造られていたことから、住民が家の畳を持ち出して洪水

を防いでいたと考えられることや当会の活動内容などを説明し、「畳堤は、先人が残した貴重な防災遺産です。これからも畳堤を大切に守り、畳堤に込められた自助・共助の精神を次世代へ引き継いでいきます」と結びました。

上田副会長はさらに、経営している菓子店（虎屋改め虎彦）で作っている「畳堤サブレ」のおまけの畳堤のミニ模型を出席者全員にプレゼント。出席者がそれぞれ模型を組み立てて楽しむ姿が見られました。

連合会の総会では、今年度の活動計画を決め、防災・減災のための治水関係予算の増額など七項目を国会と政府に対して要望すると決議されました。

また、翌日は視察が行われ、北町の畳堤、かわまち交流広場、北川家田地区の霞堤などが視察対象になりました。



会場をいっぱい埋めた出席者（上）と講演する上田副会長

リバーテクノ研究会と意見交換

昨年度総会の翌日の八月三日、水防技術の研究開発をしている一般社団法人リバーテクノ研究会（中川博次会長・京都大学名誉教授）が来延。国交省延岡河川国道事務所の会議室で当会と意見交換をしました。



写真右から、リバーテクノ研究会の與田、荒木、中川、丸井の各氏。当会の芝副会長、木原会長、上田副会長（昨年八月三日）

「延岡の畳堤には余裕を感じる」 文化人が意見したのでは

研究会からは中川一・同大防災研究所長、民間企業会員の荒木繁幸さんと丸井英一さん、事務局の與田敏昭さんの四人、当会からは木原会長、上田副会長、芝弘光副会長の三人が出席しました。

リバーテクノ研究会は、河川防

災に関する新技術を開発する目的で、二〇〇七（平成十九）年に発足。特に「モバイルレビー」の製品開発に取り組んでいます。

モバイルレビーは、洪水時のみ機能し、普段は河川景観を阻害しない可搬式、可動式の堤防であり、畳堤こそがその元祖と言えます。

プラハのモバイルレビーの文献で「日本にも畳堤がある」と知ったそうで、二〇一〇年ごろに揖保川（兵庫県）、一七七年に長良川

（岐阜県）を視察済み。今回、畳堤のルーツを探しに延岡に来たことでした。

当会も一六六年に揖保川と長良川を視察しており、畳堤のルーツ解明の願いも同じ。一時間ほどの意見交換でしたが、大変に盛り上がりました。

「洪水を防ぐのが目的なら壁を立てればいいのに、なぜ穴をあけたのが不思議だ」

「やはり風情が大事にされたんじゃないかと思う」

「水運が大事な時代だから、川側から見た風景が重視されたんじゃないか」

「行政の方から穴のあいたものを造りましょうと提案するとは考えにくい。手間がかかるから。それとも材料費の面では、壁を造るより安かったのかも」

「壁で景色をふさいでもらったら困ると言った文化人が何人もいたんじゃないか」など。

三カ所の畳堤の形の違いについては「揖保川・長良川は武骨だが、五ヶ瀬川のはおしやれに造ってあって、余裕を感じる」との評価をいただきました。

最後に「皆さんの畳堤への熱い思いを若い人たちに伝えていって

ほしい」と、当会へ激励のことばをいただきました。

清掃活動

畳堤の草取りは、昨年度は四回行いました。写真左は、橋の日の様子です。撮影者は芝副会長。朝焼けがきれいですね！

今年の橋の日（八月四日）も午前五時三十分には北町のモニメント前に集合、畳堤周辺を清掃した後、ほかの橋の日の参加者と合流します。お集まりください。



水辺の青空美術館

作品募集を始めました

五ヶ瀬川の豊堤を守る会は、「水辺の青空美術館」に展示する絵画作品を十月二十日まで募集します。

豊堤には、増水時に豊を入れて堤防を一時的にかさ

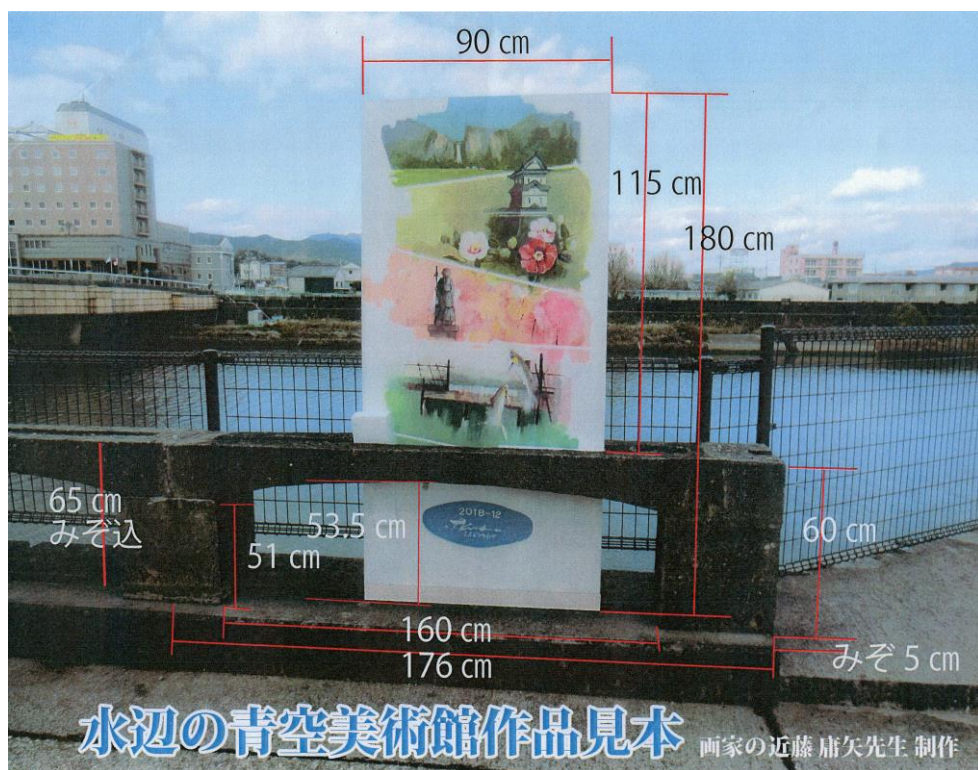
上げる目的で、隙間が開いています。今回ここに豊ではなく、市民の皆さんが描いた絵を入れて並べ、鑑賞しようという企画です。目標数（八十枚）が集まれ

ば、須崎町から船倉町にかけての五ヶ

瀬川右岸堤防に、絵画がずらりと並びます。同堤防ではこのほど、国交省による補強工事が終わり、天端が三メートルに拡張されましたので、絵画と豊堤を安全に鑑賞してもらうことができます。展示は十一月一日～十二月二十日の予定です。

【応募要領】

- ◆対象Ⅱ保育園、幼稚園、小学生、中学生、高校生、一般（六部門）。
- ◆テーマⅡ「ふるさと延岡」を広くPRするもの。
- ◆画材Ⅱ平板、雨に流れない絵具、筆を、延岡市消防本部で配布します。
- ◆参加費Ⅱ無料。
- ◆表彰Ⅱ部門ごとの最優秀賞一人、優秀賞一人に賞品と賞状。ほかに参加賞。
- ◆申込用紙の送り先Ⅱ守る会事務局（ひかり工房 Fax 0982・23・1617）
- ◆問い合わせ先Ⅱ守る会事務局（ひかり工房 Tel 0982・34・1389）。



水辺の青空美術館作品見本

画家の近藤 庸矢先生 制作

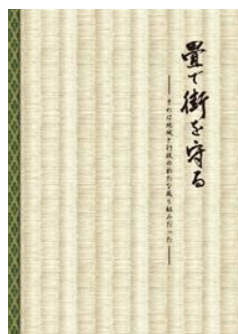
市防災フェスタに参加

第十回延岡市防災フェスタが昨年十一月十八日、延岡総合文化センター駐車場で開かれ、当会も出展しました。豊入れ体験コーナー（写真右上）や紙芝居（同下）などが好評でした。

豊堤の本第二版を発行——国交省

国交省延岡河川国道事務所、北町区、当会の三者で企画編集し、国交省が二〇〇三年十二月に発行した豊堤紹介冊子「豊で街を守る」の第二版が発行されました。初版がB五判だったのに対

して、新しい版ではA四判に拡大。豊堤が土木学会選奨土木遺産に認定、当会が水防功労者国交大臣表彰を受賞など、新しい情報が加えられました。



（編集後記）水辺の青空美術館事業は、国交省と延岡市消防本部警防課にもご協力いただき、ここまで進みました。感謝申し上げます。この原稿を書いている間も外は豪雨です。防災意識の重要性が増しています。

